

平成30年10月

魚津市定例記者会見



日時：平成30年10月1日（月） 午前11時00分～

場所：市役所第一会議室

報道出席者：北日本新聞社、富山新聞社、北陸中日新聞社、朝日新聞社、読売新聞社
NHK、BBT、NICE TV、ラジオミュー

市当局出席者：市長、副市長、教育長、企画総務部長、民生部長、産業建設部長
企画政策課長

1. 市長からの発表事項

(1) 魚津市の社会動態（転入者数－転出者数）が12年ぶりにプラス！

- ・平成29年10月1日から平成30年9月30日（1年間）の人口動態の集計結果（速報値）、社会動態で49人の増加。魚津市の社会動態がプラスになるのは、平成17年以来12年ぶり。

近隣市町村の企業立地によって移ってきた人が、魚津を住む場所として選んでくれたのではないかと推測している。

（説明内容は別添プレスリリースのとおり）

(2) 第14回魚津産業フェア「〇〇(まるまる)魚津」を開催します。

- ・新イベント

ありそドーム会場：産業観光ツアー、スイーツ横丁、つくるUOZUプロジェクト参加制作ゲーム体験ブース など

海の駅蜃気楼会場：マグロ解体ショー など

（説明内容は別添プレスリリースのとおり）

(3) つくるUOZUプロジェクト（新分野産業育成事業）

〇〇魚津でのプロジェクト専用ブース出展・10月「GAMEサミット」開催

- ・今年の春から制作を進めてきたオリジナルゲームを体験できるブースを、〇〇魚津ありそドーム会場に設置
- ・つくるUOZUプロジェクトの技術指導講師を務めてきたゲーム作家「いたのくまんぼう」氏の講演会を開催

（説明内容は別添プレスリリースのとおり）

- (4) 新川学びの森天神山交流館内に魚津更生保護サポートセンターが開設されます。
- ・魚津保護区保護司会が運営する魚津更生保護サポートセンターが、新川学びの森天神山交流館 1 階に開設（県内で 8 番目の開設。10 月 23 日開所式）
（説明内容は別添プレスリリースのとおり）

2. 教育委員会及び各部長からの説明事項

〈教育長〉

- ・児童と生産者と交流会食平成 30 年度第 2 弾～住吉小学校～（学校給食センター）
- ・元気とやまウォークラリー
- ・UO! SPO in ありそドーム
- ・「魚津市通学安全推進会議」「登下校見守り活動推進会議」
- ・たてもんの森プロジェクト植樹祭

〈企画総務部長〉

- ・北陸新幹線沿線長野・新潟・富山・石川 4 県合同移住フェア
- ・ハロウィン in 中央通り 2018

〈民生部長〉

- ・三世代交流交通安全の集い
- ・健康バランス体感セミナー
- ・第 12 回ふれあい交流フェスティバル
- ・健康づくりイベント
- ・第 26 回地域安全・暴力追放魚津市民大会

〈産業建設部長〉

- ・ハロウィンパーティ &よさこい in ミラージュ

3. 質疑応答の内容

「魚津市の社会動態」について

《記者からの質問》

人口動態について、平成 29 年度の速報値として、この数字（平成 29 年 10 月 1 日～平成 30 年 9 月 30 日の 1 年間）を使っていいのか

《回答》（企画総務部長）

県では 1 カ月後に、富山県全体の市町村について、平成 30 年富山県の人口として使う予定である。年度だと 4 月から 3 月になる。

《記者からの質問》

国勢調査だと10月1日が基準日になるので、平成30年の人口動態と読んでいいのか。

《回答》（企画総務部長）

平成30年10月1日の人口といえば、平成30年の人口として県も発表するが、その前の一年間の人口動態といえば、何年の人口動態といえばいいかは、表現に迷うところである。

《記者からの質問》

そのまま平成29年10月1日から平成30年9月30日の表現がいいのか。

《回答》（企画総務部長）

そのとおりだと思う。

《記者からの質問》

人口ビジョンは2060年までのものか。

《回答》（市長）

そのとおりである。どこの市町村も作っているものである。

《記者からの質問》

達成できる見通しはあるのか。

《回答》（市長）

現時点では、わからない。できれば基本的に社会動態をプラスマイナスゼロに持っていきたいと考えている。これまでは転出が多かった。それをプラスマイナスゼロにもっていきたい。自然動態については、現在は、亡くなられる方が毎年550人～600人いる。そのうちピークを迎えて亡くなられる方も減ってくるとは思われるが、当面は生まれてくる方も少ないので、自然動態からすると毎年300人減は続くと思われる。そうすると人口ビジョンのマイナス300人を達成するには、社会動態をプラスマイナスゼロに持っていくような努力をしないと達成できないと思っている。

《記者からの質問》

先ほど市長から、近隣市町村に勤められる方が魚津を住む場所として選んでくれたのではないかと話があったが、その裏づけとして近隣市町村のデータは調べてあるのか。

《回答》（市長）

そこは推測である。

《回答》（企画総務部長）

これについては、国勢調査の年からずっと人口動態の調査を富山県全体で行っている。魚津市も、どの自治体へ転出しているのかという資料をもっている。県も同様に公表されている。例えば、一年間通せば魚津市から富山市への転出超過が続いていることなど、各自治体間の状況が見えてくる。ただ、先ほど市長が言われた勤務地と住居地の関係は、国勢調査など色々な情報を併せて調査してみないとわから

ない。市民課のアンケートでは、結婚なのか、転勤なのか就職なのかは抑えている。他の自治体のものまでは、まだ見ていないが、データは全部ある。

《記者からの質問》

先ほどの市長の話が本当だとすると、他の自治体では社会動態がマイナスになっているのではないか。

《回答》（市長）

どこの市町村から何人入ってきているかは掴んでいる。しかし、その要因として先ほど言った、主力企業の社員移動に伴うものかはどうかの分析はリンクしていないという意味である。おっしゃるとおり他市町村からここに流入超過になれば、そちらのほうは魚津との関係からすれば転出増であるが、他の地区との関係もあるのでトータルとしてどうかはわからない。

《記者からの質問》（別の記者）

私も市長の発言を聞き、何か思われるところがあり発言されたのではないかと思ったのだが、月別の人口動態で社会動態が多いのは、去年の11月と、今年1月、6月などがある。その頃に近隣の自治体で何か工場ができたとか、工場を広げたとかがあれば、そういうことを考えられての発言かなと想像したのだが、どうだろうか。

《回答》（市長）

特定の企業に関するものかの分析は、まだできていない。それにタイムラグがあったりするので、その月がジャストかどうかはわからないという状況もある。ただ、そういった要素をしっかりと分析をしていこうと言っている。今後の人口増加を図るときに、どのような現象が起こったときにどうなるということをしっかりと掴まなくてはいけないので、そのような話はしている。

《記者からの質問》

「便利で暮らしやすいすいまち」や「若い女性やママさんたちが活動しやすく、子育てしやすい街づくりを目指す」ということを市長はいわれたが、割とどこの自治体もこのようなところを目指しているなかで、独自色はどこに出てくるのか。

《回答》（市長）

これまでもそのようなベクトルで色々なことをやっているつもりである。もう少し、それを強気に展開していくのは、これから後になる。基本的には、お子さんを持った女性だとか、高齢者、障害者含めて、そういった方々に優しく暮らしやすいまちというのは、基本的に住みよいまちであるとの思いがあるので、そのようなことを主眼に、いろんな施策を考えていきたいと思っている。

《記者からの質問》

この数字はかなり顔がほころんでしまう類の数字なのか

《回答》（市長）

ほころぶというよりは、まず、特殊な状況のなかで出た数字であるなという思いがある。先ほど言った、転出増加をしている年代について、もっと効果的にやらな

ければいけないと考えるための、いいきっかけになるのではないかと考えている。

《記者からの質問》

特殊な状況とは。

《回答》（市長）

先ほども言ったように、20代前半の女性や20代後半の男性の転出増が多いということ踏まえると、そういった世代にどういったことをやらなければならないかをしっかり考えていく、いいきっかけになるのではないかと考えている。

「〇〇魚津でのプロジェクト専用ブース出展」・「GAMEサミット」開催について

《記者からの質問》

GAMEサミットのブース出展については、ゲームを作り終えて、その成果発表的な意味合いがあるのか。

《回答》（産業建設部長）

今年の春から、参加者の皆さんにグループでゲームを制作してもらってきた。せっかくゲームを作っているのだから、その中間発表的な意味でもいいから、皆さんに発表する機会があれば、ここをひとつの目標にゲーム制作にも力が入るのではないかという思いで行うものである。みなさん、ここを目標に制作に励んでいる。

《記者からの質問》

先日、金沢工業大学で学生が作ったものが、グーグルで無料配布されるゲームに選ばれたと聞いたのだが、そのようなアプローチは、いまのところGAMEサミットでは行わないのか。

《記者からの質問》（別の記者）

最終目的は販売で、その第一弾として行ったのでは。

《記者からの質問》

グーグルなどで、無料で配布するユニットであったと思う。

《回答》（産業建設部長）

メンバーの中でそこに出しているかは、把握はしていない。

《記者からの質問》

今回は総決算ということか。

《回答》（産業建設部長）

総決算ということではなく、まずここを目指そうということで春から取り組んでもらっている。

《記者からの質問》

今年度の活動はこれで終了か。

《回答》（民生部長）

終了ではなく、この後も続けていく。まずは、この〇〇魚津という機会があるので、ここで一度皆さんが制作した成果を発表しようということで春から取り組んできてもらっている。

《記者からの質問》

中間発表か。

《回答》（産業建設部長）

中間発表である。ここでひとつ成果品を出そうということで行っている。ひとつ目標があったほうが励みになると考えている。

《記者からの質問》

今年度はあと何回あるのか。これは全体で何回あるのか。自分は、最近、魚津にきたばかりでよくわからないので。

《回答》（産業建設部長）

昨年度もこのゲームづくりの事業は実施していた。今年度も引き続き行っており、今年度は、まずはみんなでグループを作って、ひとつゲームを制作し、〇〇魚津で発表しようということを目指している。

《回答》（市長）

地方創生推進交付金の採択の枠組みとしては3カ年の取組として行っており、まだこれは2年目の事業である。昨年は、市の単独経費で行っており、交付金事業としては1年目である。そのようなタームのなかでの取組である。

《記者からの質問》

これまでは、参加者を募って、参加者がやるという形で、市民には、どのようなことをやっているか、あまり見えてこなかったと思うが、今回、このような形で、市民にこの事業をアピールする場になると思われるが、それについての期待や思いを聞かせてほしい。

《回答》（市長）

ゲーム制作が閉じこもった空間で、何か趣味の世界で行っていると思われがちであるが、そうではなくて、新しい産業分野にも寄与するものであるということを知ってもらいたいということと、これからの時代、若者はゲーム技術やゲームに関するソフト技術は、他の事業展開にも活用されていく時代であることから、そのような側面も理解していただき、できれば魚津に新しいそのような産業の芽を根付かせるための取組だということを理解していただければと思っている。

「新川学びの森天神山交流館内に魚津更生保護サポートセンター」について

《記者からの質問》

魚津更生保護サポートセンターについて、開所式は10月23日（火）であるが、開所日に火曜日が入っていない。実際にセンターとして機能し始めるのはいつからになるのか。

《回答》（民生部長）

確認してお知らせする。（※10月24日（水）から稼動 後日確認）

《記者からの質問》

企画調整保護司は交代で常駐ということであるが、常駐は一人という形か。

《回答》（民生部長）

まずは、サポートセンターを立ち上げることを優先に、会場の設定などを保護司会で調整していた。実際の活動をどのように行っていくかなど、細部については、協議して進めているところである。15 人の方が交代して常駐する。基本的には1人で行うと考えているが、1人になるか2人になるかは、現在調整中である。

《記者からの質問》

常駐という言い方でいいのか。保護司の業務は、対象者は決まっていると思われるが。

《回答》（民生部長）

このサポートセンターの開設にあたっては助成金を利用している。その助成金の条件として「常駐」が必要ということがある。このサポートセンターでは、更生に係る面接だけでなく、事務連絡等の業務も行うので、必ず1人はいる体制をとる。

《記者からの質問》

魚津保護区とは魚津市と考えていいのか。

《回答》（民生部長）

魚津保護区は、魚津市となっている。

「台風 24 号関係の被害等」について

《記者からの質問》

台風が夜中の1時ころ富山県を通過していったが、魚津市では何か被害があったか。また、対応されたことはあったか。

《回答》（市長）

朝一の被害状況の取りまとめでは、大きな公共施設災害などの報告は入っていない。農産物では一部あるが、前回の台風 21 号のような状況ではない。この後も被害状況をフォローしていきたいと思うが、現時点では大きな災害・被害の報告はない。

《記者からの質問》

農産物の一部はりんごであるか。

《回答》（市長）

農産物というよりは、農道の被害や、漁港関係で一部シャッターが曲がったなどの報告である。農産物で、特にまとまった被害はなかった。

《記者からの質問》

人的被害もなかったか。

《回答》（企画総務部長）

待機をしていたなかで、人的被害で出動することはなかった。

《記者からの質問》

小学校等の対応は。

《回答》（教育長）

小中学校は2時間遅れで始業するという対応をとった。これについては金曜日に連絡した。しかし台風の状況により変更することもあるので、各学校には連絡網を作っておくように指示した。給食の関係もあり、最終的には昨日の午前中に決定し各小中学校に連絡した。最終的に2時間遅れでの始業ということになった。この2時間は、安全確認をする時間ということでとった。